

韓国沿岸の完新統中の貝と植物の放射性炭素年代値の差異 Offset in radiocarbon ages between shell and plant pairs in the Holocene sediments around the Korea

中西 利典^{1*}; ホン ワン¹; ソン キソク¹; ソン キルホ¹; 中島 礼²
NAKANISHI, Toshimichi^{1*}; HONG, Wan¹; SUNG, Kisuk¹; SUNG, Kilho¹; NAKASHIMA, Rei²

¹KIGAM, ²産総研

¹KIGAM, ²AIST

2009 年以降、韓国地質資源研究院において韓国沿岸の放射性炭素海洋貯留効果を評価するための研究プロジェクトが実施されてきた。採取年代が特定されている西暦 1950 年以前の海洋試料が少ないので、この地域の放射性炭素海洋貯留効果の評価は難しかった。そこで、61 本の堆積物コア試料を打撃式ボーリングコア採取器によって 52 地点から 1m 毎に採取した。採取地点は Daum や Google といったウェブサイトの空中写真の判読によって選定され、1918-1926 年に作成された 1/50000 の地形図や古い空中写真も参考にされた。それぞれのコア試料の長さは最大で 5m であり、すべての試料の全長は 132m である。岩相や貝の群集組成の解析結果によって、同じ層準に含まれている貝と植物片が選定された。これらの試料は物理的と化学的に繰り返し洗浄され、KIGAM の自動グラフィット化装置によって還元され、KIGAM の AMS システムによって放射性炭素年代値が測定された。この発表では韓国沿岸の放射性炭素海洋リザーバー効果の時空間的な多様性について報告します。

キーワード: 放射性炭素年代測定, 海洋貯留効果, 沿岸堆積物, 韓国

Keywords: Radiocarbon dating, Marine reservoir effect, Coastal sediments, Korea